

# 英語

## 出題傾向とアドバイス

得意科目セレクト入学試験／専門学科・総合学科特別入学試験／公募推薦入学試験[A・B日程]／特待生入学試験

### 出題傾向

#### ○ 得意科目セレクト入学試験／専門学科・総合学科特別入学試験

試験時間 60 分のマーク式問題である。大問6題、問題 50 問で、読解問題、空欄補充問題、語順整序問題などで構成される。大問1 (12 問) は 360 語程度の説明文読解問題、大問2 (6 問) は対話文中の適文選択問題、大問3 (10 問) は対話文中の適語選択問題、大問4 (10 問) は日本文付き適語選択問題、大問5 (7 問) は類義語選択問題、大問6 (5 問) は日本文付き語順整序問題が出題されている。長文は、説明文・対話文共に標準レベルの単語で綴られ、内容も平易である。大問 1 以外は思考力や読解力を問う問題はほとんどなく、難易度は標準～基礎レベルであるものの、文法・語法・語彙の幅広い知識が必要とされる。

#### ○ 公募推薦入学試験[A・B日程]

試験時間 60 分のマーク式問題である。A・B 日程ともに、大問 5 題、問題 50 問で、読解問題、空欄補充問題、語順整序問題などで構成される。大問1 (15 問) は 350～500 語程度の説明文読解問題、大問2 (10 問) は英文中の適語選択問題、大問 3 (5 問) は対話文中の適文選択問題、大問4 (15 問) は 300～370 語程度の説明文読解問題、大問5 (5 問) は日本文付き語順整序問題が出題されている。文法・語法問題は標準レベルであるが、長文問題が2題あり、いずれも文法・語法・語彙を問う問題に加え、内容理解の問題も出題されているので、時間配分に注意が必要である。全体の難易度は、標準～基礎レベルである。

#### ○ 特待生入学試験

試験時間 60 分のマーク式問題である。大問6題、問題 50 問で、読解問題、空欄補充問題、語順整序問題などで構成される。大問1 (12 問) は 450 語程度の説明文読解問題、大問2 (10 問) は日本文付き適語選択問題、大問3 (10 問) は対話文中の適語選択問題、大問4 (8 問) は 100 語前後の説明文の読解問題が3題、大問5 (5 問) は類義語選択問題、大問6 (5 問) は日本文付き語順整序問題が出題されている。全体の難易度は、標準～基礎レベルであるが、読解と内容理解の問題が多いので、時間配分に注意が必要である。

### アドバイス

#### ① 幅広い知識を身につけ、得点率を上げよう

難易度はさほど高くないものの、全体的に文法・語法・語彙を問う問題が多く、出題形式も空所補充や語順整序などの文法問題だけでなく、長文中からの出題も多いため、幅広い知識が必要となる。語彙問題対策としては、類義語選択問題が出題されていることから、英英辞書を活用しながら日々の学習の中で類義語を調べて覚えるステップも取り入れていくとよい。また、単純に英単語とその和訳を暗記するだけでなく、単語を含むイディオムも合わせて覚えたり、教科書の例文と合わせて覚えたりしていくといった行動をとっていくことを心掛けたい。文法・語法問題対策としては、文法事項ごとに幅広く出題されている問題集やさまざまな問題形式を扱った総合問題集などを必ず1冊は繰り返し解いて例文と合わせて学習していくとよい。

#### ② 長文読解は速読力を身につける

長文読解問題は、英文の語数が多くても 500 語程度と少なめであるが、比較的平易な英語で書かれているものが多いので、問題数が多めである割には一つひとつの問題を短時間で解いていく力が求められる。空所補充問題は、文法や語彙を問うものが多いため、テンポよく最小限の時間で解くことを心掛けよう。内容理解の問題は、先に設問に目を通してから本文と読み合わせると、時間の短縮につながる。英字新聞などを活用して、日ごろからさまざまなテーマの英文を、文脈を読み取ることを意識して読むことを習慣づけると、速読力のアップにつながるだろう。速読力がついてきたら数年分の過去問題を取り組んで、長文問題にかかる時間をあらかじめ決めておくと、本番の試験でも慌てずに解くことができるようになってくる。

## 出題傾向

## ○ 一般入学試験[前期A・B日程]

A・B日程とも試験時間が60分、大問5題、問題50問で、全問マーク式の選択問題である。問題の内訳は、第1問は30行～40行程度の文章読解問題で16問、第2問は30行程度からなる対話文中の空所を補充する問題で10問、第3問は英文中の語句と同義の語句を選択する問題で7問、第4問は35行程度の文章読解問題で12問、第5問は語順整序の問題で5問となっている。発音やアクセントの設問は出題されておらず、単語や語句の意味を問う設問が多く出題されている。文章読解や対話文の問題では、空所に適切な語句を補ったり、本文を言い換えたりまとめたりする力を試す設問が多い傾向がある。試験の難易度は基礎～標準レベルで、バランスのとれた出題となっている。

## ○ 一般入学試験[後期]

試験時間が60分、大問6題、問題50問で、全問マーク式の選択問題である。問題の内訳は、第1問は40行程度の文章読解問題で15問、第2問は日本文つき英文中の空所補充問題で6問、第3問は日本文つき英文の語順整序問題で6問、第4問は英文中の語句と同義の語句を選択する問題で10問、第5問は二者の対話の応答文を選択する問題で7問、第6問は20行程度からなる対話文中の空所を補充する問題で6問となっている。一般前期同様、発音やアクセントの設問は出題されていない。対話文と熟語の出題が多く、英語の基本的知識やコミュニケーション力が重視されている。試験の難易度は基礎～標準レベルで、バランスのとれた出題となっている。

## アドバイス

## ① 教科書や学習参考書を最大限に活用する

前期・後期ともに、高校で学習する基本的な文法問題が出題されている。主だったものとしては、接続詞・前置詞・関係詞・仮定法・分詞構文で、とりわけ熟語や慣用表現に関しては基本的なレベルの設問となっている。合格を確実なものにするために、これらの問題で順調に得点を重ねたいところである。60分の試験時間に対して設問数が多いので、自信をもってすばやく解答できるところまで到達することが肝要である。そのためにも、高校で採用されている教科書や学習参考書、単語集をくりかえし復習して不得意分野のない状態で試験に臨もう。特に後期で出題数が多くなっている英語の語法や英会話の基本表現も、学習参考書で扱ってある重要表現を中心におさえていきたい。

## ② 文章読解問題を含めた総仕上げは総合問題集で

文章読解問題で扱ってあるトピックは、前期では「ラッキー7」にまつわる話や健康に関する問題、任天堂の話題、後期では環境問題というように、高校生にとって親しみやすい、興味をひかれる内容となっている。幅広いテーマの文章読解問題に対応できるよう、英語学習者向けの英字新聞を早い時期から読み慣れておこう。はじめのうちは短めの文章や興味をひかれるものからでよいので、毎日少しずつでも英字新聞を読む習慣をつけることで、時事問題にも詳しくなり英語特有の表現も身につけてくる。入試の時期が近づいたら、共通テストレベルの総合問題集を使い、解答時間の短縮を意識しながら実践力をつけていくとよい。解答時間に差が付きやすい文章読解問題では、先に設問から目を通すことで読解のポイントをおさえる練習を重ねていこう。